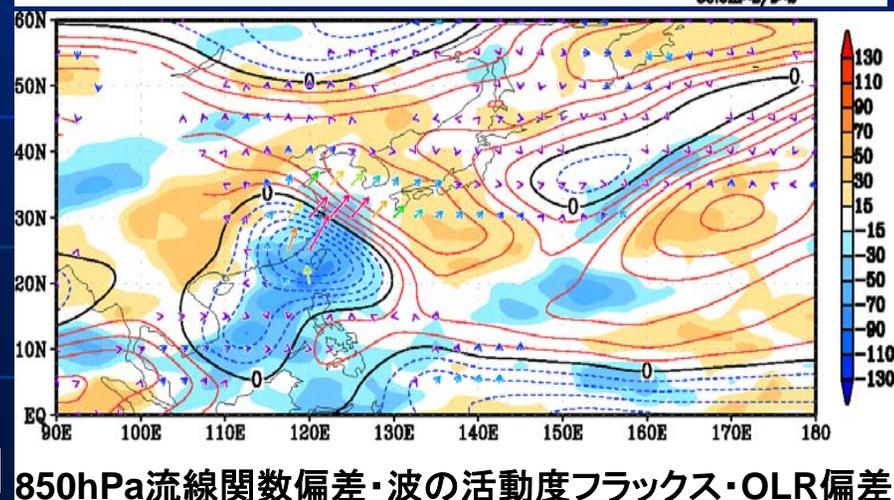
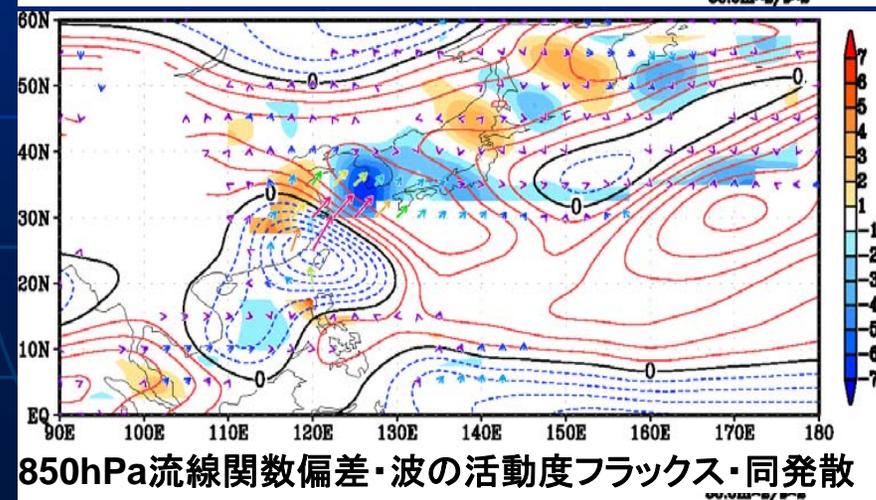
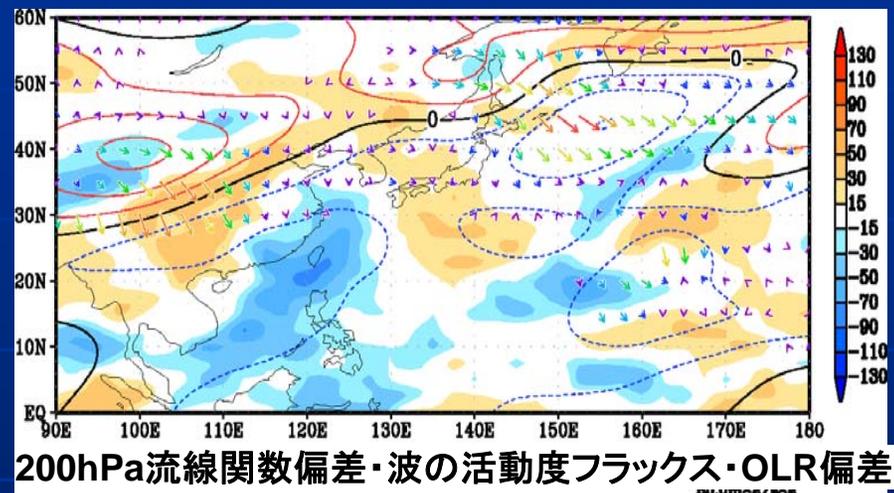
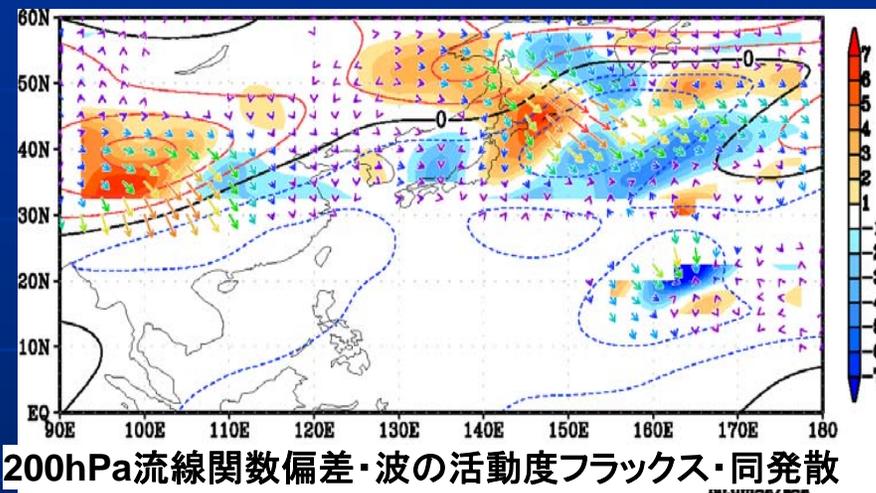


4. 7月下旬後半以降の状況

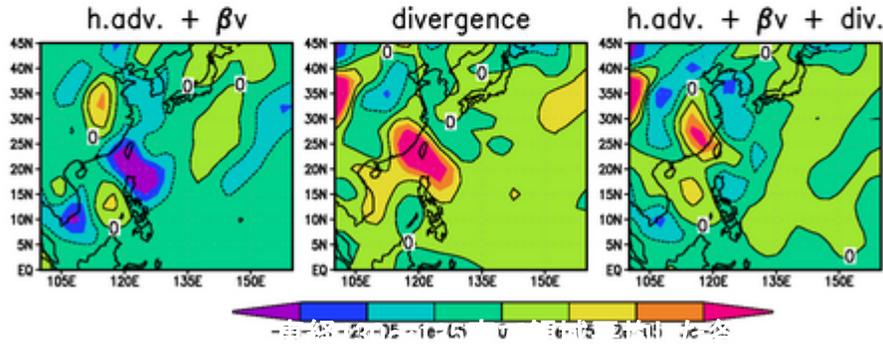
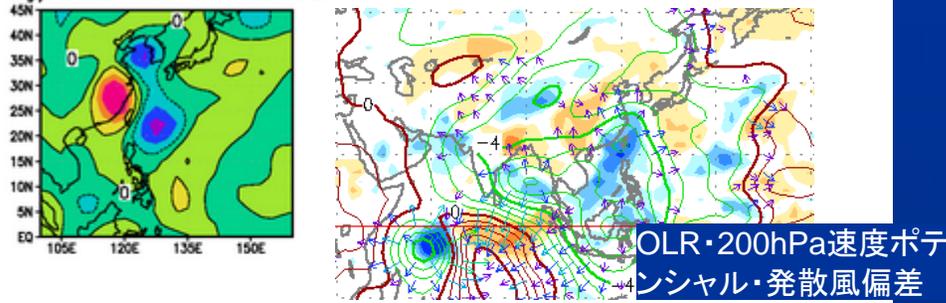
4. 1 準定常ロスビー波束の状況(7月26~30日)

- * 850hPaでは台湾付近から北東に射出された波の活動度フラックスが明瞭。
- * 波の活動度フラックスが収束している東シナ海北部から西日本で高気圧性循環が強まっている。
- * 200hPaでは比較的波長の長い波が卓越しており、日本付近はトラフで傾圧構造となっている。

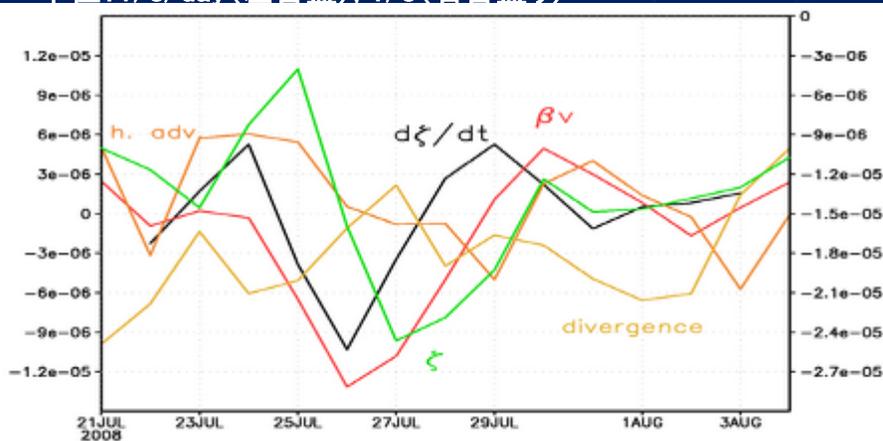


4. 2 西日本の下層高気圧の渦度収支 (7/26~8/4)

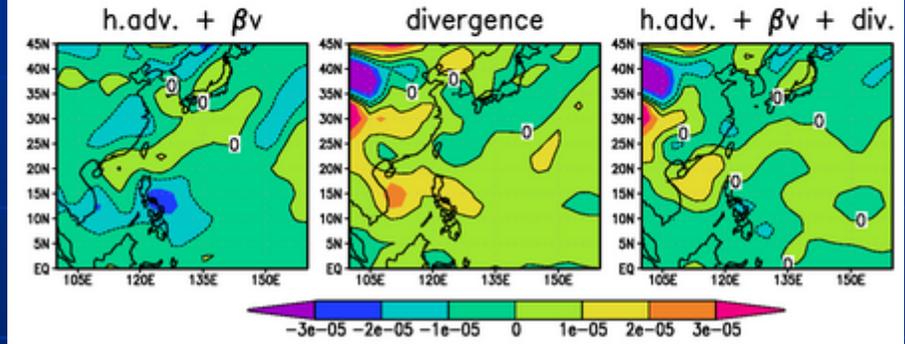
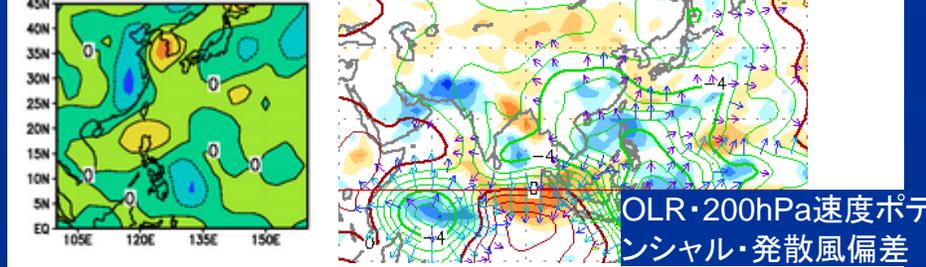
$d\zeta/dt$ 26Jul-30Jul2008



ζ (緑線)は右目盛り、その他は左目盛り。
単位: 1/s/day(左目盛り), 1/s(右目盛り)



$d\zeta/dt$ 31Jul-04Aug2008



- * 25~27日にかけて高気圧性渦度が強まった。
- * この変化に β 項が最も寄与しており、台湾付近からの準定常ロスビー波束の伝播によるものと推測される。
- * 30日以降、高気圧性渦度の変化がほとんどない状態が続いている。
- * この維持には、発散項が最も寄与しており、高気圧を取り囲んで活発な対流活動域からの上層発散風収束に伴う下降流によるものと推測される。